

## まえがき

本書は、1991～92年度に実施されたアジア経済研究所『冷戦後の東北アジア』研究会の成果を取りまとめたものである。

1989年12月のマルタ会談において米ソ首脳が冷戦終結で合意し、続いて東欧の社会主義政権が崩壊した際、北東アジアの冷戦については、その終結はかなり先のことになるとの予想が多かった。北東アジアの冷戦は、中国と朝鮮半島二つの分断国家が象徴するように欧州のそれとは大きく異なる起源と特徴を有していたからである。

しかし、実際には、1990年9月の韓ソ国交樹立、91年9月の南北朝鮮の国連同時加盟に見られるように、この地域でも予想を上回る速度で脱冷戦プロセスが進行していった。このことは、北東アジアにおいても欧州とは異なった意味あいでの脱冷戦に向けた変化が生じつつあったことを示唆していると考えられる。

本研究会は、以上の問題意識に立って(1)北東アジアの冷戦構造の特徴と脱冷戦プロセスを地域各国の視点からとらえ描き出すこと、(2)こうした作業を踏まえて、この地域における今後の新しい相互関係と中台、南北朝鮮という二つの統一問題の展望を試みることをめざした。本書の各論文がこのねらいを実現し得たかどうかは読者の判断に待つしかないが、今後の北東アジアの冷戦、脱冷戦をめぐる論議の一助になれば幸いである。

2年にわたった研究会の間、研究会メンバー諸氏にはテーマに不慣れな編者によく御協力頂いた。また、所外の研究者・専門家を招請してヒヤリングを行なったが、それによって研究会メンバーの問題意識を深めることができた。さらに、編集にあたっては研究所内の方々から貴重なコメントを頂いた。いちいち御名前は挙げないが御礼申し上げたい。